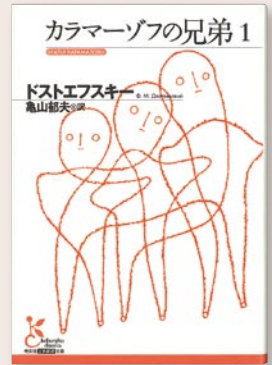


## 『カラマーゾフの兄弟 (全5巻)』

光文社古典新訳文庫

著者：ドストエフスキー／亀山郁夫・訳

価格：1巻 760円・2巻 820円・3巻 880円・4巻 1080円・5巻 660円



推薦図書の依頼を受け、いまパソコンとらめっこをしています。新聞によれば、亀山訳の『カラマーゾフの兄弟』はベストセラーになっているようです。正直言って少し驚きです。私がこの小説と出会ったのは、大学2年生の頃のこと。当時は岩波文庫で読みました。とても難しく、なんども途中で放棄しようとしたように思いますが、じつは映画も見ました。グルーシエンカ(娼婦)の妖艶な顔をいまでも思い出します。でも、小説の重要場面、「大審問官」の部分は、キリスト教徒でない私にはとても難しく感じました。それがベストセラーになっているというのですから驚かざるを得ません。でも、とてもいい小説であることは間違いないので推薦したいのです。

ところで、図書を推薦するというのも難しいことのように思います。じつは私は若い頃、大の読書嫌いだったのです。その私が、いまは毎日数冊(5ないし6冊)並行して本を読んでいます。なぜそんな本になったのか。それは大学時代に、それこそ本当に読書好きの友人たちに刺激されたからです。この友人たちはいまだに尊敬の気持ちをもつてつきあっています。尊敬できる友人の資質は読書に裏打ちされているのです。私も彼らの友人でありつづけるためにはそのような努力をする必要がある、というのが読書を始めた動機なのです。正直言って読書は努力を要する、というのが私の考えです。読書が好きになるため私が採った方法は、徹底的に長編に取り組む—これは読書嫌いを克服するための私の方法—と言うことでした。その一つがここで推薦している『カラマーゾフの兄弟』です。最近亀山訳のもの(これは地元の図書館で借りて)も読みました。とても読みやすくなっていると思います。いい本をどうやって見つけるか。ともかく読まないことには始まりませんが、読んでいてどこかで涙を流す、というのが私の場合いい本との出会いの証拠です。『カラマーゾフの兄弟』には、たくさんそんな場面がありますが、「大審問官」の場面が私のお気に入りです。

## 学生スタッフコラム 2



夏休みまったただ中ですが皆さんは何か計画を立てて過ごされていますか。ゆつくり休養している方もいれば、普段できないことに取り組んでいる方もいることでしょう。今回は私がこれまでの大学生活での活動を通して思ったことを書いてみたいと思います。

上：今年6月の教育実習中の写真  
左：2年生・3年生の夏休みに調査に行った中国毛烏素沙地の写真

大学生活も4年目となり、学部生最後の年となりました。大学に入った当初は、これほど大学生活を楽しく感じるとは思ってもみませんでした。1年生の夏休みには実家でタラタラと過ごした私でしたが、2年生からは調査に参加したり、カンファレンスに行ったりと機会を活用してきて、大学1年目には得られなかった充実感を得ています。関心のあった内容について専門の先生方から詳しく話を聞いたり、実際に調査を行ったり・・・という学生としての学習はもうありませんが、「大学」という規模で、これまで道徳のりを歩んできた人々と接する機会を持つことは新たな発見の連続でした。多くが同年代にもかかわらず、意見や価値観は多様です。それは高校まででもそうだったはずですが、自分で自分の生活を管理し、自分の意思をはっきりと示す場となって改めてそのことを実感しました。そして多くの人と接する中で、自身自身の考えを持てるようになり、自分や周りの成長や変化を感じています。

そのことを最も強く意識したのは、今年6月の教育実習でした。母校で



の2週間の実習中、私自身もお世話になった先生方の授業を参観させていただきました。教育実習生という立場から高年生の頃と視点が異なるのは当然のことです。しかしそれ以上に、先生の授業への熱意、生徒の関心を引き出す姿勢、生徒の授業への理解度といったものが目につけて、高校の授業というのはこんなにもしっかりと組み立てられていたのかと驚きました。正直、高校時代はただ先生の言うことを受け止めるだけだったので、もっと目標をもって臨めばよかったともしつかり思いました。ただ、そのことがわかっただけでも私にとってはひとつの成長でした。

高校生の私と大学生の私と同じものを見ても思うこと、気づくことが違うように、これからいろいろな経験・体験を重ねることで、また違った視点がうまれると思うと楽しみです。立ち止まったり、振り返ったりするときも大切ですが、せっかくの大学生活、とくにこの夏休み、今できることにチャレンジしてみたら新たな発見があるかもしれません。

(学生スタッフ・山口由真)

より良い広報誌を作成するために、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。取り上げてほしい話題・質問したいことなど、何でも結構ですので、右記連絡先までお寄せください。

岡山大学広報誌

第51号  
2009.8



発行/岡山大学総務・企画部総務課

〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1

TEL. (086) 251-7292 FAX. (086) 251-7294

E-mail. www-adm@adm.okayama-u.ac.jp

<http://www.okayama-u.ac.jp>



創立60周年  
2009